

災害に強い森づくり事業の実績 2022 年度（令和 4 年度）・2023 年度（令和 5 年度）

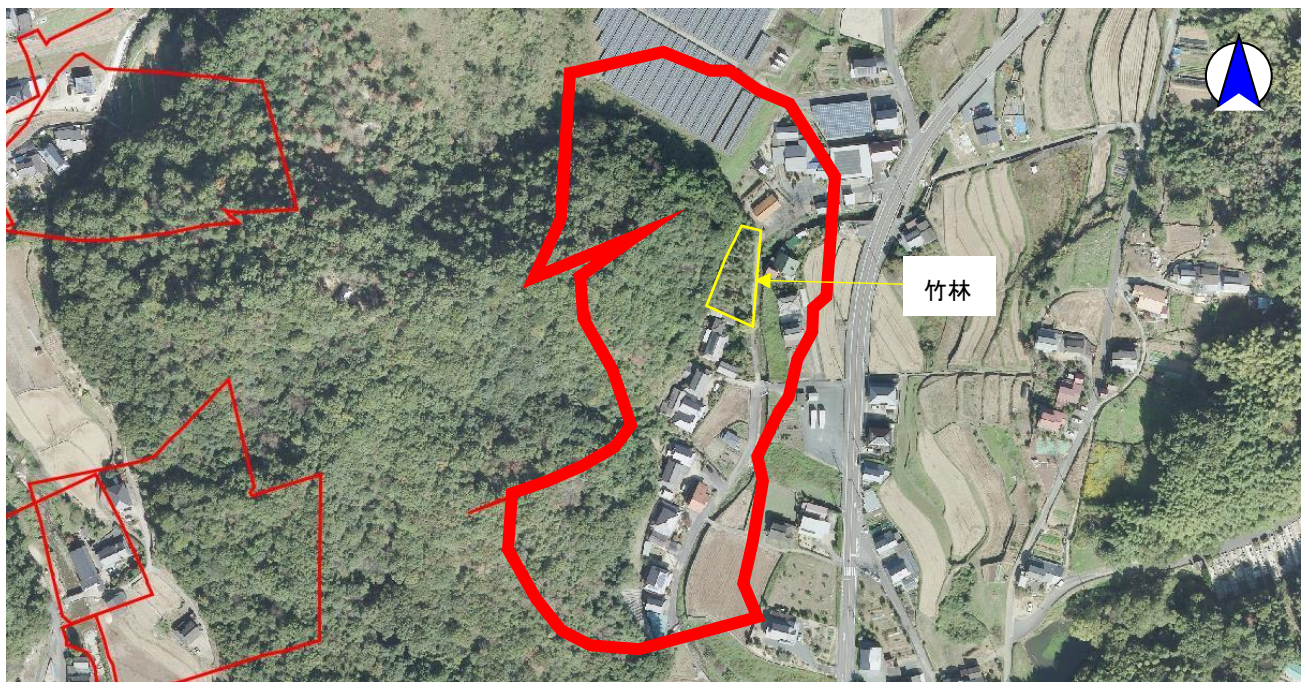
【整備場所の位置図】



整備場所	斜面方位	標高(m)	傾斜(度)	面積(ha)	整備年度
①加茂町神末	南東	99～120	38	1.21	2022
②神辺町名越	北西	10～ 50	34	0.79	
③芦田町久田谷	北	39～ 81	42	1.43	
計				3.43	
④千田町烏山	東	22～ 63	34	0.72	2023
⑤沼隈町阿伏兎	北西	10～ 66	33	1.30	
⑥本郷町	北東	33～ 97	40	1.45	
⑦坪生町	南東	32～ 95	39	1.09	
計				4.56	

※斜面方位、標高、斜度は標準的な場所でのデータ

① 加茂町神末



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・カシ（常緑広葉樹）、コナラ、桜、リョウブ（落葉広葉樹）の広葉樹林帯
樹木	・樹高10m程度、胸高直径10～20cm程度の樹木が密集し、樹冠が塞がっている。 ・尾根付近は落葉広葉樹が多く光条件はよい。麓付近はカシが多く生え、暗い。 ・不良木や枯損木、枯れ松による倒木が多く見受けられ、山の麓に竹林が密生している。
表土	・地表の露出が見られ、表土が雨に流れやすい状況にある。

【整備した内容】

◎常緑広葉樹が多い中で、落葉広葉樹の健全な成長を目的とした森林整備

- ①森林の除伐（8cm以下）、不良木、枯損木の伐採、倒木処理
- ②樹高10m程度であり、成長がよい木を残すことを基本に樹間2.5m～3.0m程度で間伐
→伐採本数 1,144本、間伐率 32.6%
- ③竹林の伐採（1,263本）、樹木粉碎機によるチップ化

【整備前】



【整備後】



【整備前】



【整備後】



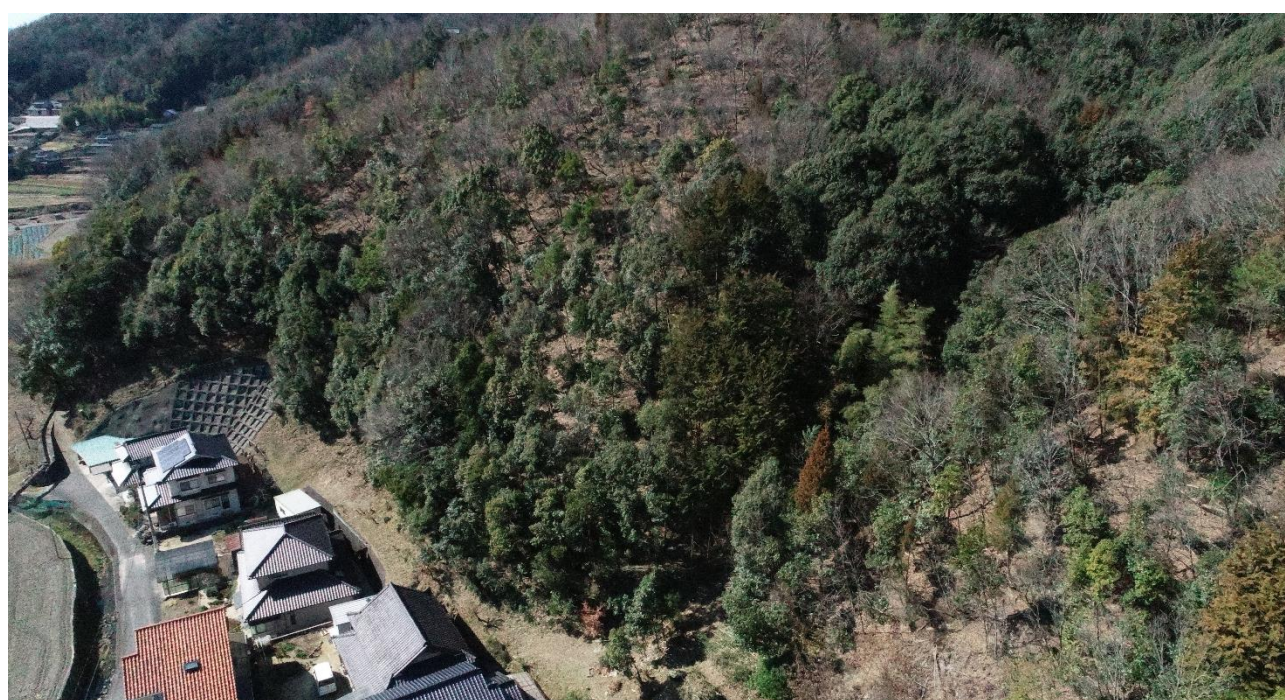
【整備前】



【整備後】



【整備後】



② 神辺町名越



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・クヌギ（落葉広葉樹）を主とした、ソヨゴ、カシ（常緑広葉樹）を含む広葉樹林帯
樹木	・樹高 10 m 程度、クヌギは胸高直径 20 cm 程度で大木もある程度ある。 ・クヌギは枯損木が見受けられ、倒木により立木の成長を阻害している状況がある。 ・尾根付近は水分も少なく樹高も低い。光条件はよい。 ・山の麓に竹林が密生している場所がある。
表土	・下層植生が少なく地表の露出が見られ、表土が雨に流れやすい場所が見られる。

【整備方法】

◎クヌギを主とした落葉広葉樹の健全な成長を主とし、不良木・枯損木等の除伐、倒木処理を中心とした森林整備

①森林の除伐（8 cm 以下）、不良木、枯損木の伐採、倒木処理

②樹高 12 m～15 m 程度で、成長がよい落葉広葉樹を残すことを基本に樹間を 2.5 m～3.5 m 程度として、競合した樹木を伐採。

→伐採本数 343 本、間伐率 19.7%

③尾根付近は、山全体に光が当たるように多く伐採して光環境を改善。

④樹木がない場所は、8 cm 以下も残すようにした。

⑤竹林の伐採（204 本）

【整備前】



【整備後】



【整備前】



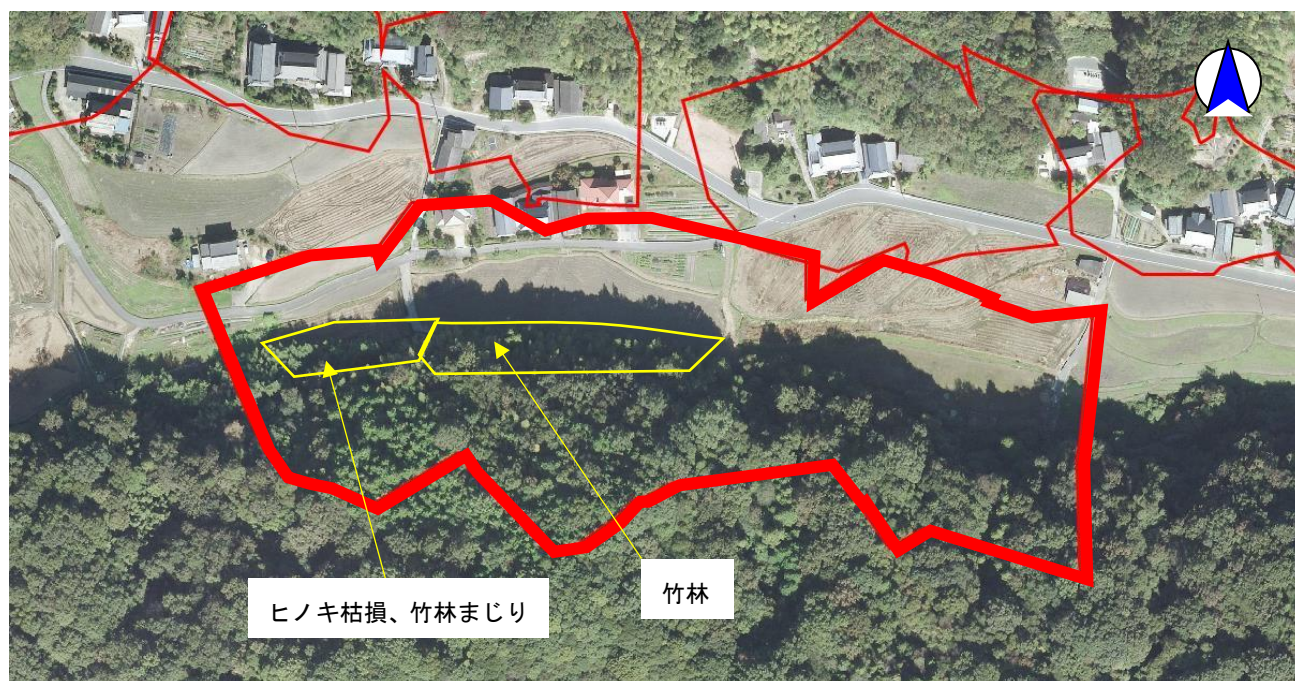
【整備後】



【整備後】



③ 芦田町久田谷



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・カシ（常緑広葉樹）を中心に、クヌギ、クリ（落葉広葉樹）を含んだ広葉樹林帯で、ネズミサシ（針葉樹）やスギ・ヒノキの人工林もある。
樹木	・樹高10m程度、胸高直径10～20cm程度の樹木が多いが、20cm以上の大径木も多い。 ・山の方位が北向きであり、林内は暗く、下層植生が育ちにくい状況 ・つる植物が多い。不良木や枯損木も多く、倒木も見受けられる。 ・山の麓から広範囲に竹が侵食してきている。 ・谷地形の場所が3か所程度存在し、スギが植栽されている。
表土	・地表露出により、表土が雨で流れやすい状況にある。

【整備方法】

◎落葉広葉樹の健全な成長を主とし、下層植生の豊富な広葉樹と針葉樹（スギ・ヒノキ）の混じった森林（針広混交林）になることを目的とした森林整備

①8cm以下の木の伐採、つるの処理、枯れた木、倒木処理

②成長がよい広葉樹とスギやヒノキの人工林を残すことを基本に、樹間を2.5m～3m程度としてカシの木（常緑広葉樹）、横に曲がっている樹木を中心に伐採
→伐採本数 617本、間伐率 16.0%

③竹林の伐採（1,403本）

④ヒノキ・スギは、枯れた木など伐採が必要なものを処理

【整備前】



【整備後】



【整備前】



【整備後】



【整備後】



④ 千田町烏山



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・コナラ、クヌギ、サクラ（落葉広葉樹）、カシ（常緑広葉樹）からなる広葉樹林帯
樹木	・樹高20m弱、胸高直径10～20cm程度の樹木が密集し、樹冠が塞がっている。 ・不良木や枯損木、松枯れ等による倒木が多く見られる。 ・一部のカシ、コナラにナラ枯れの兆候が見られる。 ・通学路があり、樹木等が伸びて圧迫している状況にある。
表土	・地表露出により、表土が雨で流れやすい状況にある。

【整備方法】

◎コナラを主とした落葉広葉樹の健全な成長を主とし、不良木・枯損木等の除伐、倒木処理を中心とした森林整備

①森林の除伐（8cm以下）、不良木、枯損木の伐採、倒木処理

②成長がよい落葉広葉樹を残すことを基本に、樹間を2.5m～3.0m程度とし、カシを中心に伐採。

→伐採本数 305本、間伐率 18.4%

③通学路の支障となる樹木の伐採

④ナラ枯れ被害木の伐採及び搬出処分。

⑤竹林の伐採（656本）

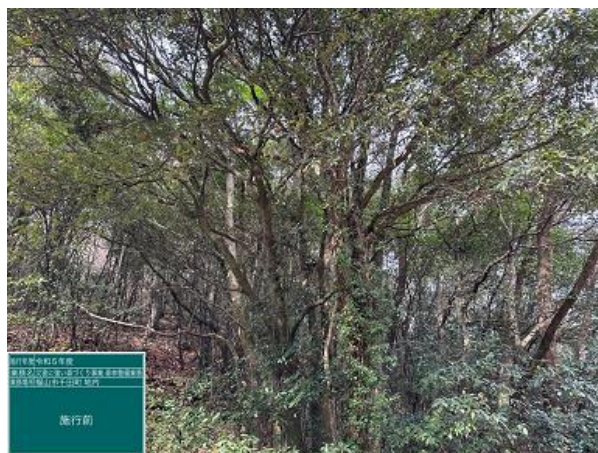
【整備前】



【整備後】



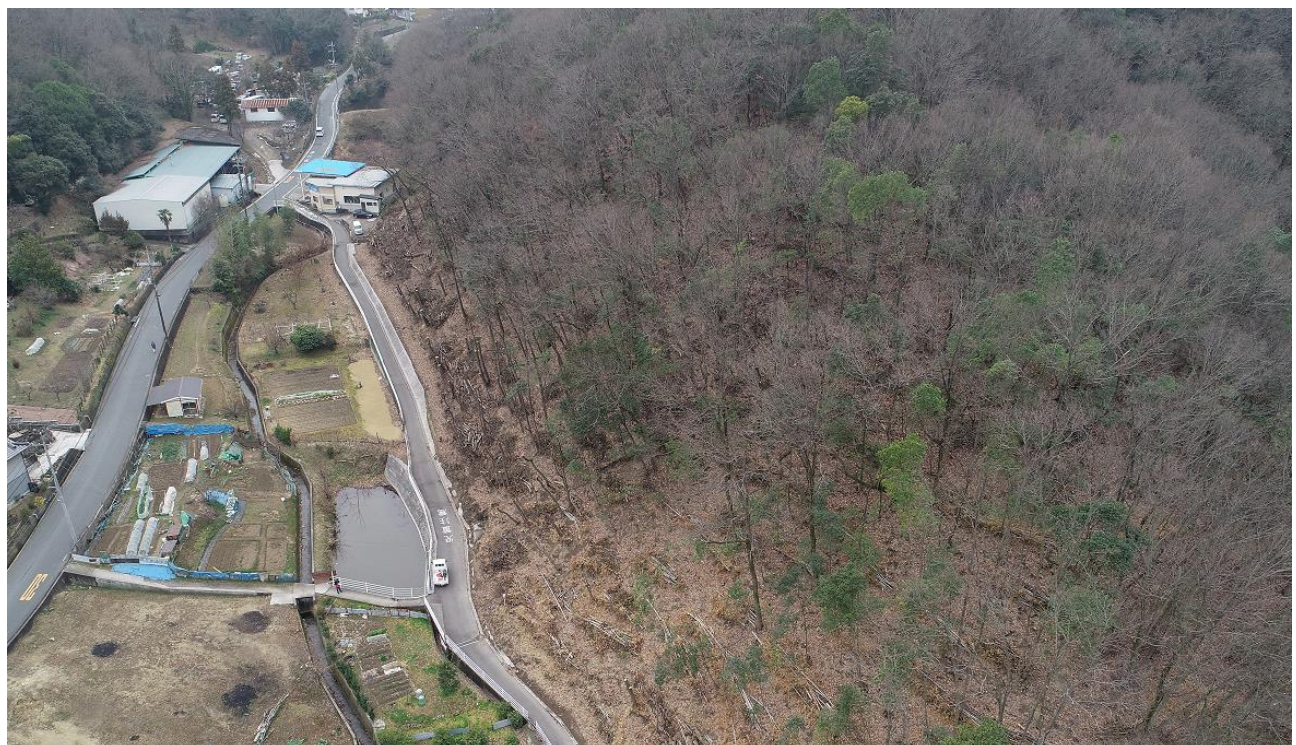
【整備前】



【整備後】



【整備後】



⑤ 沼隈町阿伏兎



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・ネジキ（落葉広葉樹）、シャシャンボ（常緑広葉樹）など小高木からなる広葉樹林帯
樹木	・樹高10m程度、胸高直径10～20cm程度の樹木が密集し、樹冠が塞がっている。 ・林内の光環境は暗く、下層植生はシダ類が2m以上の高さで被圧し、立木はやせ細ったものが多い。 ・不良木や枯損木が全体的に見受けられ、枯損木の多くが倒木となっている。 ・隣接地に駐車場があり、樹木の枝等が伸びて圧迫している状況にある。
表土	・地表はシダ類で覆われているが、谷地形などでは表土が露出し、雨で流れやすい状況にある。

【整備方法】

◎落葉広葉樹の健全な成長を主とし、修景景観にも留意した、特定樹種の間伐ではなく不良木・枯損木等の除伐、倒木処理を中心とした森林整備

①森林の除伐（8cm以下）、不良木、枯損木の伐採、倒木処理

②樹間を2.5m～3.0m程度とし、ネジキ、アオギ、ウバメガシ、リョウブを中心に伐採。

→伐採本数 691本、間伐率 23.1%

【整備前】



【整備後】



【整備前】



【整備後】



【整備後】



⑥ 本郷町



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・コナラ、サクラ（落葉広葉樹）中心の樹種に、カシ（常緑広葉樹）も含めた落葉・常緑からなる広葉樹林帯
樹木	・樹高10～20m程度、胸高直径10～20cm程度の樹木が密集しているが、一部整備跡が見られる。 ・不良木や枯損木、松枯れ等による倒木が多く見られる。 ・ナラ枯れの兆候はなかった。 ・施業地の上部は、灌木及び成長不良の樹木が密集している。
表土	・地表露出により、表土が雨で流れやすい状況にある。

【整備方法】

◎コナラ、サクラを主とした落葉広葉樹の健全な成長を主とし、不良木・枯損木等の除伐、倒木処理を中心とした森林整備

①森林の除伐（8cm以下）、不良木、枯損木の伐採、倒木処理

②成長がよい落葉広葉樹を残すことを基本に、樹間を2.5m～3.0m程度とし、カシを中心に伐採。

→伐採本数 388本、間伐率 10.7%

③ヒノキなどの人工林は伐採しない。（枯れた木、倒木を処理）

【整備前】



【整備後】



【整備前】



【整備後】



【整備後】



⑦ 坪生町



【森林の特長】

項目	森林内の状況
樹種	・コナラ、(落葉広葉樹)、カシ(常緑広葉樹)からなる広葉樹林帯
樹木	・樹高10m～20m、胸高直径10～20cm程度の樹木が密集し、樹冠が塞がっている。 ・不良木や枯損木、松枯れ等による倒木が見られたが、ナラ枯れは確認されなかった。 ・集会所があり、直径80cm以上の大径木が圧迫している状況にある。
表土	・地表露出により、表土が雨で流れやすい状況にある。

【整備方法】

◎コナラを主とした落葉広葉樹の健全な成長を主とし、不良木・枯損木等の除伐、倒木処理を中心とした森林整備

①森林の除伐(8cm以下)、不良木、枯損木の伐採、倒木処理

②成長がよい落葉広葉樹を残すことを基本に、樹間を2.5m～3.0m程度とし、カシを中心に伐採。

→伐採本数 458本、間伐率 22.1%

③山裾の大径木の伐採

